

do.co!momo!

docomomo 2020 TOKYO プレイイベント

都城市民会館はなぜ解体にいたったのか？

—メタボリズム建築の過去・現在・未来—

主催 一般社団法人 DOCOMOMO Japan

- 趣旨 -

2019年3月19日、都城市市議会にて解体予算修正案が否決され、事実上解体が決定しました。イコモスインターナショナル、ドコモモインターナショナルなど日本国内外の専門家たちから解体への強い反対表明がなされたにもかかわらず、都城市は解体へと動いています。しかし、一方で、専門家による閉じた議論、一般市民の無関心、そして、ドコモモジャパンの長年にわたる不作為の状態から、解体が表面化するとすぐさま反対運動をするという拙速な行動自体が、解体になんらかの影響を与えた可能性もあります。

メタボリズム建築は、稀少性、特異性という性質から、熱狂的に支持される一方、不快感を有するひとつとも少なからず存在します。ドコモモジャパンでは、みずからの行動に反省を込めて、今回緊急シンポジウムを企画しました。都城市民会館の解体について粗上りのせることによって、まさに現在、世界的に注目を浴びている日本のメタボリズム建築の意味と将来を議論する所存であります。

なお、午前中には、ドコモモ2020東京国際会議のサブテーマのひとつ、「メタボリズム再考」についても議論がなされ、メタボリズム建築そのものを相対化し、現在の社会への意義を考えます。あわせてご参加ください。

- プログラム -

13:00-13:15

全体司会 山名善之 (ドコモモジャパン副代表、東京理科大)
企画趣旨 渡邊研司 (ドコモモジャパン代表、東海大学)

13:15-14:45

第1部 なぜ、都城市民会館は解体にいたったのか？

- 鯉坂徹 (イコモスジャパン、ドコモモジャパン、鹿児島大学)
「報告：都城市民会館の再生活用案他」
- 川越祐子 (ひむかへりテージ機構代表世話人)
「なぜ都城市民会館を残せなかったのか？ 市民の保存活動から」
- 山名善之 (同前)
「専門家の役割とその意義と限界」
- 質疑応答 30分

15:00-16:30

第2部 メタボリズム建築の現状は？

- 穴水宏明、平田隆太郎 (東京大学修士)
「メタボリズム建築とその現状：全体像」
- 前田達之 (中銀カプセルタワービル保存・再生プロジェクト 代表)
「中銀カプセルタワー：カプセル交換の可能性」
- 渡邊研司 (同前)
「丹下健三によるメタボリズム建築」
- 山本大輔 (島根県職員)
「山陰の菊竹建築群」
- 質疑応答 30分

16:45-17:30

第3部 メタボリズム建築の未来にどのように対処すべきか？

- 白井原太 (白井辰一建築研究所・アトリエ No.5)
「建築の魂を受け継ぐ道」
- 村松伸 (東京大学)
「いかに世話をするか？—建築遺産リテラシーとその向上ツール」
- 三宅健士朗 (みずほ総合研究所株式会社)
「メタボリズム建築の活用手法としての官民連携」

17:30-18:15

全体討論

2019年6月29日 (土)
東京大学工学部1号館15号教室
サブテーマ研究会

申し込み不要 / 参加費無料

お問い合わせ docomomo.jp@gmail.com

September 6-15, 2020

<https://docomomo2020.com/>

